

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【自然科学系】

出席を前提として、レポート評価に基づく。実習中の積極性を評価することもある。授業内容に関する筆記試験を行い、知識理解を評価した。また、レポート課題を1つ課し、その取り組みから文章をまとめる力や学びの意欲を評価した。出席とレポートの内容で評価している。特に野外調査における観察力を重視している。

いずれの教科教育法科目も、2つの目標が設定されています。あえて一方のみを扱うと規定しない講義の場合には、期末試験をそれぞれの目標へ振り向けて出題問題を設定し、講義内で指摘・確認したことや活動したことを踏まえた記述がどの程度出現しているかによって採点し、得点状況から到達度を把握しています。成績判定は期末試験のほかに日常点と課題点をシラバス記載通りに加味したうえで、行っています。日常点と課題点によって成績判定を行うように規定した講義の場合には、前もって評価方法や規準を提示しておき、それに従って成績判定を行っています。

講義への出席態度(振り返りレポートへの記述、出席回数)、レポートの提出内容、記述試験、協働学習活動やグループ活動の内容などを含めて、総合的に判断している。

【算数科教育A・B】

算数の授業構成や指導案作成等を課題に出したので、それをもとに評価しました。授業展開に無理がないか、児童の反応をきちんと予想できているか、具体的な場面はイメージできているかなどについて評価しました。

【算数科教育A・B】

グループで統計的な問題解決に取り組んでもらい、結果をレポート提出してもらいました。統計的な問題解決の実践力について、問題設定・計画・分析の観点・結論・表現方法等の観点で評価しました。

毎回の「出席確認課題」と「期末考査」の結果を総合的に判断して評価した。どちらの問題もすべて、新しい知識をどれだけ知っているかではなく、それらのアイデアを新しい観点とした際に自らの考えや算数の授業実践がどのように変わりうるのかを問うた。なお、今期受講者のGPA平均(失格者・試験欠席者を除く)は、2.23であった。

講義シラバスや授業において、学習目標や内容、評価方法等を示すとともに、授業の進捗状況等も勘案しました。

- ・授業への参加状況(発言、記録)
- ・授業の内容と振り返りのマッチング
- ・評価テストの結果

シラバスには、「講義内容と「授業外学習指示」で指定した学習を踏まえた<知識/理解><思考/判断>を問う筆記試験(持ち込み不可)を85%、レポートを15%とする」と書いており、実際のそのようにして素点を出したが、毎回、総合点の平均を70-75点程度にするように、ある程度得点調整をしている。学生には、自己評価に比して単位は出ているように思えるだろう。実際、アンケート問13「授業の難易度」に関して、3割程度の学生が「難しい・難しすぎる」と回答しているが、授業レベルとしては丁度よいと思っている(その割には、問15に「1時間未満・なし」と回答している学生が7割以上いるのが大問題)。

シラバスには、「持ち込み不可の筆記試験85%、小テスト15%」と書いてあり、そのように素点は出した。ただし、もう一方の算数科研究AIIと、総合点の平均点・GPAを合わせるために、得点調整を行い、総合点平均は約80点になるようにした。問13「授業の難易度」には、「難しい・難しすぎる」と回答した学生が44%程度いたが、その感触に比して単位が取れている学生が多かったはずであるし、難易度の設定に関しては問題無いと思われる。

・出席条件を満たしているかと試験結果。  
・試験結果は、各教員が授業回数に比例した得点を持ち、単純にそれらの総和を取った。クラス毎で平均点・GPAに極端な差が出た場合、得点調整をする予定であったが、結果的には殆ど差が出ず、得点調整は行われなかった。  
・問13「授業の難易度」に「難しい・難しすぎる」と回答した学生はクラスによって差があり、5割を超えるクラスがあった。ただし、Dは各クラス数名程度で、「難しい・難しすぎる」と回答した学生に比して、単位を取れた学生は多かったはずである(難易度設定は今後の課題とする)。

ワークシートの記述から、知識の活用力(思考力や表現力)を評価した。また、グループワーク課題に即した内容を改めて、筆記試験形式で問い直すことで、授業な学んだ知識の定着度を確認した。

試験結果に出席、発表を加味した。

出席点と、課題、テストによって結果を出した。  
課題については、数学的モデル化教材作成という現場の教員でもあまり行っていない内容について取り組むことで、最新の知見を考えさせる機会とし、指導案作成という現場が要請している内容についても評価の対象とした。